

徳照寺（とくしょうじ） 中山手通8丁目



徳照寺は浄土真宗本願寺派で、山号を光谷山と号する。寺の縁起によれば、1613（慶長18）年頃、ある浪人が出家しこの地に草庵を営んだのが寺の始まりであるという。寺の記録では、1837（天保8）年に本堂が再建されたとある。

この寺が有名なのは、国の重要文化財に指定されている梵鐘があるからだ。この梵鐘は1129（大治4）年に鑄造され、1164（長寛2）年に改鑄されたということが表の銘文に書かれており、内側に五輪塔と梵字が陽鑄されているのは珍しい。もともとこの梵鐘は大和国成身院の鐘で、天保年間の本堂造営の時、大坂の商人から買い入れたものである。この鐘は1979（昭和54）年まで実際に使われていたが、今は収蔵庫に収められている。

場所：神戸市中央区中山手通8丁目5-23



国指定重要文化財 梵鐘

写真は著者提供 1994年撮影

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著